

Title	福澤先生関係文献目録稿
Sub Title	
Author	今宮, 新(Imamiya, Shin)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.3 (1934. 11) ,p.199(545)- 234(580)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341100-0199

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福澤先生關係文獻目錄稿

今 宮 新

は し が き

今回福澤先生特輯號を發行するに當つて、今まで先生に關して書かれた諸雜誌の論文及び單行本の目錄を作ることになり、主として本年夏之が蒐集をなしたのが本稿である。先生に關する記事は思つたより多く蒐集されたけれども、先生を評論した論文と見らるべきものはあまり多く見出せなかつた。本來は全く先生のみを論じた論文及び單行本に限る考であつたが、そのみに限るとかなり數も少くなり、又折角蒐集したものを多く捨てるにもしのびなかつたので、これ等も本目錄に入れることにした。即ち他の題目でも先生の事を論じてゐる主なるもの、先生の著述に對する諸批評、又は戲曲類なども取り入れることにしたのである。雜誌は世間に公刊されてゐるものを主とした爲に慶應義塾内で刊行されてゐる諸雜誌に掲載されたものは割愛したのも多くある。單行本の撰擇に就ては最も困難を感じたので、

大體節や章を設けて先生を論じてゐるものを主として取ることにした。諸傳記類又は歴史書の中にも先生に言及してゐるものは非常に多くあるが、此等は總て割愛することにした。場合に依ては、これ等捨てたもの、中に、當然取る可きものも多くあつたらうと思はれるけれども、多くの著書の内容を短日月の間に一々檢することの困難であつた事と、總て此等を加へる時はかなりの數になる事の爲に、これら他日の機會に譲ることにしたのである。又諸雜誌に發表されたもので後に單行本となつた場合には重複されて記されてゐることもあり、更に雜誌の號數年月等にも多少の錯誤があること、思ふ。短期間中に蒐集したものであるから、雜誌類に於ても又單行本に於ても、決ず多くの遺漏があり、又一々内容を檢したのでなく書名題目に依て撰擇したのものもあるから、不適當のものも多くあること、思はれる。幸に本目錄が先生研究の一助ともなり、又後日更に完璧なるもの、足場ともなればよいと思ふ。本目錄を作成するに當つて本塾國史學科生會田倉吉、高橋礪一、徳永康信三君の努力に負ふ所が甚だ多かつた。茲に厚く感謝の意を表する次第である。

雜 誌

加藤 弘 之 福澤先生ノ論に答ふ

(明六雜誌二)

明治七年三月

森 有 禮 學者職分論ノ評

(同上)

同上

津田真道 學者職分論ノ評

(同上)

同上

西 周 非學者職分論

(同上)

同上

田口卯吉 福澤先生著民間經濟錄第二編を讀む

(東京經濟雜誌三九)

同十三年九月(田口卯吉全集第三卷)

田口卯吉 福澤先生著時事小言を讀む

(東京經濟雜誌八二)

同十四年十月(田口卯吉全集第八卷)

福澤翁の政治運動

(東京經濟雜誌二九の七一三)

同二十七年二月

福澤翁の特性

(東京經濟雜誌二九の七二〇)

同二十七年四月

M K 生 福澤先生

(太陽二の一)

同二十九年九月

福翁の宇宙觀

(東京經濟雜誌三三の八一五)

同二十九年三月

福澤翁と氣品

(東京經濟雜誌三四の八五〇)

同二十九年十一月

「福翁百話」

(太陽四の一七)

同三十年八月

福澤諭吉氏

(太陽四の一七)

同三十年八月

「福翁百話」

(哲學雜誌一二の一二七)

同三十年九月

「福澤全集」

(太陽三の二二)

同三十年十月

「福澤全集緒言」

(進歩黨々報一九)

同三十一年一月

鳥谷部春汀 福澤諭吉翁

(太陽四の一)

同三十一年一月

福澤氏と日本文明

(太陽四の三)

同三十一年三月

菊地 武德 文明主義と政論

(慶應義塾學報三)

同三十一年五月

福澤諭吉氏

(太陽四の一)

同三十一年六月

奥村信太郎 福澤諭吉

(太陽五の一三明治十二傑)

同三十二年六月

小幡篤次郎 修身要領の由來

(慶應義塾學報二五)

同三十三年三月(交詢雜誌五〇、五月號)

門野幾之進 修身要領發表について

(同上)

同上

綱島榮一郎 福澤翁の「修身要領」を読む

(教育學術界一の六)

同三十三年四月

井上哲次郎 福澤翁の修身要領を評す

(教育學術界一の七)

同三十三年五月

井上哲次郎 道德主義としての獨立自尊

(太陽六の一〇)

同三十三年五月

林 毅 陸 修身要領に對する井上哲次郎氏の批評を読む

(慶應義塾學報二八)

同三十三年六月

井上哲次郎 獨立自尊主義の道德を論ず

(哲學雜誌一五の一六一)

同上

「瘠我慢の説」を紹介す

(日本人一二九)

同三十三年十二月

「瘠我慢の説」に就き

(日本人一三一)

同三十四年一月

綱島榮一郎 福澤先生の人生二面観 (教育學術界二の三) 同上

鎌田榮吉 福澤先生を吊ふ (慶應義塾學報三六) 同三十四年二月

小幡篤次郎 吊詞 (同上) 同上

福地源一郎 舊友福澤諭吉君を哭す (同上) 同上

野崎廣太郎 嗚呼福澤先生 (同上) 同上

(此外本誌には先生逝去に就ての各新聞社の論説十七編を掲ぐ)

岳南子 敗將一滴之血涙 (日本人一三三) 同三十四年二月

偉人の死去 (同上) 同上

大町桂月 福澤氏の瘠我慢説 (太陽七の二) 同上

田口卯吉 福澤翁逝けり (東京經濟雜誌四三の一〇六七) 同上 (田口卯吉全集第八卷)

戸田芳助 福澤先生を吊ふ (交詢雜誌五六九) 同上

笹川潔 國家と福澤翁 (日本人一三四) 同三十四年三月

大町桂月 福澤諭吉を吊す (太陽七の三) 同三十四年三月

福澤翁の長逝 (哲學雜誌一六の一六九) 同上

三田の教師 (教育學術界二の五) 同上

福澤先生「哀悼錄」

(慶應義塾學報三九臨時增刊)

同三十四年四月

牛中山人 學者は社會の奴雁なり

(東京經濟新報一九二)

同上

鎌田・榮吉 福澤先生

(慶應義塾學報四〇)

同三十四年五月

福澤一太郎 學者と實業家の同心協力

(慶應義塾學報六〇)

同三十六年一月

大隈重信 日本の文明と福澤先生

(慶應義塾學報八四)

同三十七年十一月

大隈伯の福澤翁追懷

(史學界七の二)

同三十八年二月

矢田 績 慶應義塾と名古屋

(慶應義塾學報九四)

同三十八年九月

牛中山人 福澤と福地

(東洋經濟新報三八〇)

同三十九年六月

海老名彈正 明治時代の思潮

(慶應義塾學報一〇六)

同三十九年七月

下田次郎 福澤先生の精神と事業

(教育學術界一四の二)

同三十九年十月

菅 綠 蔭 福澤先生と儒教

(慶應義塾學報一一四)

同四十年二月

森村市左衛門 福澤先生と高德

(慶應義塾學報一一五)

同四十年三月

濱野定四郎 今昔雜談

(慶應義塾學報一一八)

同四十年六月

六大教育家追頌式

(太陽一三の九増刊號)

同上

鎌田 榮吉 福澤先生(明治故人評論、三、福澤諭吉翁)

(中央公論二二の七・二二〇) 同四十年七月

福本日南 福澤翁の譬喩(同上) 同上

池邊吉太郎 福澤諭吉翁(同上) 同上

戸川秋骨 福澤先生(同上) 同上

愛山生 破格論(同上) 同上

三宅雄次郎 福澤雪池翁(同上) 同上

徳富蘇峰 福澤諭吉氏(同上) 同上

竹越三又 予の知れる福澤先生(同上) 同上

入澤自然 福澤先生の舊住宅 (慶應義塾學報一三〇) 同四十年五月

大隈重信 福澤先生と我輩の處世主義 (實業之世界五の一) 同四十一年五月

石黒忠恵 我輩の處世主義、余の見たる福澤諭吉 (實業之世界五の二) 同四十二年六月

向軍治 福澤先生と宗教心 (開拓者三の七) 同四十一年七月

福澤一太郎 今若し父が在世ならば如何なる言行を爲すか (實業之世界五の四) 同四十一年八月

大隈重信 今若し福澤先生が在世ならばこんな事を言はれるだらう

(實業之世界五の四)

明治四十一年八月

慶應義塾出身の諸名士が今日あるを得たる福澤先生の教訓(其一)(其二)

(實業之世界六の一、六の二)

同四十二年一月、二月、

思想界の變遷

(太陽一五の三明治史第七編文藝史)

同四十二年二月

井上角五郎 終生忘る能はざる恩師福澤先生の訓誠

(實業之世界六の三)

同四十二年三月

田中米作 獨立自尊は仁義なり

(慶應義塾學報一四二)

同四十二年五月

宮田暢 福翁訓話を讀む

(實業之世界六の七)

同四十二年七月

田中一貞 福澤先生と明治最初の圖書館

(慶應義塾學報一四五)

同四十二年八月

三宅雄次郎 先輩青年品行論、福澤氏の一夫一婦論

(實業之世界六の九)

同四十二年九月

大隈重信 福澤先生の常識と我輩の常識

(實業之世界六の一)

同四十二年十月

鎌田 榮吉 福澤先生を追懐す (慶應義塾學報一五二) 同四十三年二月

後藤 新平 明治の救世主福澤先生十回忌に際して故人を追想す

(實業之世界七の四) 同四十三年二月

森村市左衛門 今猶予が泌々と感ずる福澤先生の三大教訓

(實業之世界七の七) 同四十三年四月

井上角五郎 朝鮮の合邦に就いて (雄辯一の九) 同四十三年十月

井上角五郎 福澤先生と朝鮮問題 (慶應義塾學報一六一) 同四十三年十二月

鎌田 榮吉 逝後十一年福澤先生追懐談 (慶應義塾學報一六三) 同四十四年二月

福澤 桃介 出世の祕訣、福澤先生と大隈伯 (實業之世界八の四) 同上

鈴木梅四郎 慶應義塾に關する卑見 (慶應義塾學報一六五、一六六) 同四十四年四月

莊田平五郎 寒心すべき福澤先生の豫言實現せられたり

(實業之世界八の九) 同四十四年五月

桂 太郎 時代の要求する人物 (慶應義塾學報一六八) 同四十四年七月

河岡 潮風 一布衣福澤諭吉 (雄辯二の七) 同四十四年七月

井上角五郎 福澤先生と手紙の書き方 (雄辯二の八) 同四十四年八月

伊澤 溫 山 福澤先生の金錢論

(慶應義塾商工會會報三)

同四十四年十月

伊藤 痴 遊 福澤諭吉

(雄辯二の一〇)

明治四十四年十月

山名 次 郎 學生の獨立自尊

(慶應義塾學報一七四)

同四十五年一月

島田 三 郎 福澤先生を悼む

(中等國語讀本第八)

同四十五年一月

田中 萃 一 郎 福澤先生

(新日本二の四)

同四十五年四月

山田 松 三 郎 福澤先生豫言適中の實例

(實業之世界九の九)

同四十五年四月

鎌田 榮 吉 私學の發展

(慶應義塾學報一七九)

同四十五年六月

鎌田 榮 吉 福澤諭吉先生

(太陽一八の九)

同上

若宮卯之助 福澤諭吉論(一)(二) 福澤先生と拜金宗(上)(下)

(實業之世界九の一、九の一二)

同四十五年六月

若宮卯之助 福澤諭吉論(三)(四)(五) 著述家としての福澤先生(上)(中)(下)

(實業之世界九の一五、九の六、九の二七)

同四十五年八月、大正元年九月

鎌田 榮 吉 明治の私學教育

(新日本二の九)

大正元年九月

若宮卯之助 福澤諭吉論(六)(七) 改革者としての福澤先生(上)(下)

(實業之世界九の一八、九の一九)

同元年九月、十月、

若宮卯之助 福澤諭吉論 (八)(九) 教育家としての福澤先生 (上)(下)

(實業之世界九の二二) 同元年十一月

鎌田 榮吉 政治教育の今昔

(慶應義塾學報一八七) 同二年二月

田中萃一郎 福澤諭吉 (民權史上の十二名士) (新日本三の四)

(新日本三の四) 同二年四月

田中萃一郎 犠牲の新舊兩意義、福澤翁の名言

(實業之世界一〇の九) 同二年五月

若宮卯之助 福澤諭吉論 (十)(十一) 福澤先生と慶應義塾 (上)(中)

(實業之世界二〇の三、二〇の四) 同二年六月、七月

鎌田 榮吉 獨立自尊の眞意義

(慶應義塾學報一九二) 同二年十月

田中 王堂 評論家としての福澤諭吉

(中央公論二八の一〇・三一〇) 同二年十月

笠原嘉次郎 外人の見たる福澤先生

(慶應義塾學報一九八) 同三年一月

菊池 大麓 福澤先生紀念會所感

(慶應義塾學報一九九) 同三年二月

平木 白星 戲曲「慶應から明治」

(太陽二〇の五) 同三年五月

大河内翠山 福澤諭吉

(雄辯五の六) 同三年六月

向軍治、青木徹二 福澤先生が存世ならば如何なる言行をせらるべきか

(實業之世界一一の二六)

同三年十二月

井上角五郎 雄辯界の想い出、福澤翁の演説評

(雄辯六の一)

同四年一月

北里柴三郎 學問の神聖と獨立

(三田評論二二二)

同四年二月

朝吹英二 舊話

(同上)

同上

鎌田榮吉 三田行の所感

(同上)

同上

鎌田榮吉 福澤先生の常識修養法

(實業之世界一二の七)

同四年四月

鹿子木員信 福澤先生の根本精神「獨立自尊」の心を思ふ

(倫理講演集一五三)

同四年五月

森村市左衛門 日本外國貿易と福澤先生

(三田評論二二六)

同四年七月

犬養毅 三田學風の變遷

(同上)

同四年七月

鎌田榮吉 福澤先生と長沼村の關係

(三田評論二一八)

同四年九月

須田辰次郎 余の在塾中に於ける珍談奇聞

(三田評論二二三)

同五年二月

江原素六 余の先輩及び友人の見たる福澤先生

- 目賀田種太郎 後輩として受けた感化 (同上) 同上
- 山名次郎 福澤先生の平生と其の著書 (三田評論二二四) 同五年三月
- 石田新太郎 慶應義塾の精神 (慶應義塾商工會々報一三) 同五年五月
- 鎌田榮吉 慶應義塾と醫學との關係 (三田評論二二七、二二八、二二九) 同五年六月、十一月
- 後藤牧太 義塾懷舊談 (三田評論二二九) 同五年八月
- 三輪光五郎 義塾懷舊談 (三田評論二三〇) 同五年九月
- 須田辰次郎 義塾懷舊談 (三田評論二二二、二三三、二三四、二三五) 同五年十一月、同六年二月
- 松山棟庵 義塾懷舊談 (三田評論二三六) 同六年三月
- 草郷清四郎 義塾懷舊談 (三田評論二三七) 同六年四月
- 飯田平作 義塾懷舊談 (三田評論二三八) 同六年五月
- 小野清 義塾懷舊談 (三田評論二二九) 同六年六月
- 大隈重信 福澤諭吉翁論 (現代之實業、三の六、三田人物號) 同六年六月
- 澁澤榮一 福澤先生及獨立自尊論 (同上) 同上
- 西野惠之助 經驗より思ひつきし福澤先生の遺徳

(同上)

同上

鎌田 榮吉 恩師として觀たる福澤先生 (同上)

同上

天野 爲之 福澤翁と義塾の教職員諸氏 (同上)

同上

森村市左衛門 恩人として觀たる福澤先生 (同上)

同上

大木源之助 福澤先生の高義と長沼村民の蘇生

(同上)

同上

山名 次郎 福澤諭吉先生と西郷南洲翁 (同上)

同上

馬場 孤蝶 福澤先生と福地源一郎 (同上)

同上

田中 一貞 福澤先生の情的方面 (同上)

同上

北里柴三郎 福澤先生と余が生涯の事業 (同上)

同上

占部百太郎 福澤先生と政治、先生と政治趣味

(同上)

同上

福澤先生略傳

(同上)

同上

森 春吉 義塾懷舊談

(三田評論二四〇)

同六年七月

酒井 良明 義塾懷舊談

(三田評論二四一)

同六年八月

- 飯田三治 義塾懷舊談 (三田評論二四三) 同六年十月
- 安場末喜 義塾懷舊談 (三田評論二四四) 同六年十一月
- 鎌田榮吉 在職二十年間の慶應義塾 (三田評論二四五) 同六年十二月
- 井上角五郎 義塾懷舊談 (同上) 同上
- 山名次郎 義塾懷舊談 (三田評論二四六) 同七年一月
- 島田三郎 奈翁なき奈翁時代 (勝、福澤兩翁を憶ふ) (日本及日本人七二二) 同上
- 安藤正胤 義塾懷舊談 (三田評論二四七) 同七年二月
- 大窪實、市川勝太郎 義塾懷舊談 (三田評論二四八) 同七年三月
- 鎌田榮吉 義塾と朝鮮關係 (三田評論二四九) 同七年四月
- 立田革、原田虎太郎 義塾懷舊談 (三田評論二五〇) 同七年五月
- 加藤木重教 義塾懷舊談 (實業之世界一五〇の二一) 同七年六月
- 早川鐵治 三傑後の十傑 (福澤諭吉) (三田評論二五三) 同七年八月
- 吉村寅太郎 義塾懷舊談 (三田評論二五四) 同七年九月
- 岩村透 義塾懷舊談 (三田評論二五五) 同七年十月
- 白水生 義塾懷舊談 (三田評論二五五) 同七年十月

谷 本 富 福澤諭吉先生を懷ふ

(雄辯九の一一)

同上

坂 田 實 義塾懷舊談

(三田評論二五七)

同七年十二月

栗 本 惠 明 義塾懷舊談

(三田評論二五八)

同八年一月

甲 斐 織 衛 義塾懷舊談

(三田評論二六一)

同八年四月

清 原 貞 雄 明治時代の思想界

(歴史と地理四の六)

同八年十二月

菅 學 應 福澤先生と門閥打破

(三田評論二七三)

同九年四月

菅 了 法 義塾懷舊談

(三田評論二八〇)

同九年十一月

鎌 田 榮 吉 獨立自尊と新思想

(實業之世界一八の二)

同十年一月

井 上 角 五 郎 偉人の片影

(現代二の一〇)

同十年十月

兒 玉 花 外 福澤魂と新生

(雄辯一二の一〇)

同上

新 井 格 明治時代に於ける社會思想

(解放特大號、明治文化の研究)

同上

清 原 貞 雄 明治思想史

(同上)

同上

土 田 杏 村 「我」の發見の開展史 (福澤の客觀主義)

(同上)

同上

石 川 三四郎 自由民權史 (福澤諭吉と加藤弘之) (同上)

(同上)

同上

石 川 三四郎 自由民權史 (福澤諭吉と加藤弘之) (同上)

(同上)

同上

千葉 龜雄 新聞雜誌の發達(偉人福澤諭吉) (同上)

同上

鎌田 榮吉 鐵道五十年福澤先生を追懷す

(三田評論二九二)

同十年十一月

矢野 文雄 大隈侯と福澤先生

(實業之日本二五の三)

同十一年二月

坂本 易徳 在塾當時の回顧

(三田評論二九八)

同十一年五月

矢田 績 福澤先生の手紙

(三田評論二九九)

同十一年六月

鎌田 榮吉 塾長の任を辭す

(三田評論三〇〇)

同十一年七月

吉野 作造 維新當時に於ける國際協調主義 (中央公論三七の一〇)

同十一年九月

前田 慧雲 福澤翁の人生觀

(弘道三六六)

同十一年九月

劍花 山人 福澤先生との對話

(實業二の二)

同十二年二月

井上角五郎 この念慮一つが成功の要素

(現代四の五)

同十二年五月

堀内 輝美 福澤先生を追懷す

(慶應義塾商工會々報二五)

同十二年七月

石河 幹明 福澤先生に就いて

(三田評論三一八)

同十三年二月

野依 秀一 福澤諭吉翁の拜金と大阪人の拜金

(實業之世界二一の二)

同上

竹越與三郎 福澤先生に就いての追懷 (三田評論三一九)

同十三年三月

江川環桑 追懷福澤先生 (同上)

同上

増田廉吉 福澤先生の史蹟を訪ねて (三田評論三二〇)

同十三年四月

鎌田榮吉 福澤先生と演説の起原 (三田評論三二三)

同十三年七月

草澤學人 福澤翁を刺さんとした奇才 (現代五の七)

同上

セルフレスペクトの解 (我觀改卷二)

同十三年八月

高田他家雄 保険醫より見たる福澤先生 (三田評論三二五)

(同十三年九月)

井上角五郎 福澤先生より聽きし演説の心得に就いて

(三田評論三二六)

同十三年十月

大音龍太 福澤を暗殺せんとした四人組の書生

(雄辯一五の一〇)

同十三年十月

横山雅男 福澤先生の珍らしき芳翰及山田十竹の福澤先生の時評

(三田評論三二九)

同十四年一月

山名次郎 新日本建設の大恩人福澤先生提唱の獨立自尊にかへれ

(實業之世界二二の五)

同十四年五月

鎌田榮吉 福澤諭吉 (キング一の六) 同十四年六月

永井享 福澤諭吉の日本婦人論 (社會政策時報五八) 同十四年七月

雨花子 福澤諭吉の漢文と雅號 (新舊時代一の五) 同十四年八月

吉野作造 福澤先生と洋服 (新舊時代一の八) 同十四年十月

小泉信三 福澤全集刊行に就いて (財政經濟時報一二の二一) 同十四年十一月

三宅雪嶺 同時代觀 (我觀二七) 同十五年一月

石河幹明 福澤先生より受けた感化 (實業之日本二九の一) 同上

白柳秀湖 彌太郎の幕僚と福澤先生 (實業之世界二三の一) 同上

石田新太郎 獨立自尊と相互敬愛 (三田評論三四二) 同十五年二月

石河幹明 福澤先生と醫學 (三田評論三四三) 同十五年三月

白柳秀湖 大隈三菱と三田派を提げて起つ (福澤翁と大隈重信) (實業之世界二三の五) 同十五年五月

福澤先生のスパイ觀 (新舊時代二の二) 同十五年五月

大音龍太 慶應義塾の草分演説 (雄辯一七の七) 同十五年七月

長谷川如是閑 福澤諭吉と西周 (新舊時代二の四、五) 同十五年八月

小野 秀雄 福澤諭吉と新聞

(新舊時代二の八)

同十五年十一月

芳 陵 生 福澤先生の雅號に就いて

(同上)

同上

木村 毅 明治大正文學の社會的考察 (福澤諭吉とブルジョア、リベラリズム)

(文章俱樂部一二の二)

昭和二年一月

横山 雅男 福澤先生より大隈侯へ

(三田評論三五三)

同上

高橋 義雄 余の福澤先生初對面記

(實業之世界二四の三)

同二年三月

井上角五郎 福澤諭吉先生の事

(現代八の四
第二附錄偉人傑士言行錄)

同二年四月

小野清一郎 福澤諭吉の文明論

(經濟往來二の四)

同上

柳 人 生 福澤諭吉翁の京都學校記

(明治文化研究三の四)

同上

福田 徳三 福澤、田口、天野と明治の經濟學

(我等九の六)

同二年六月

霧 滿 舍樓 福澤翁の前半生

(東洋三〇の六)

同上

小山 完吾 書生の觀た福澤先生

(三田評論三五九)

同二年七月

長尾 藻城 福澤諭吉先生の漢字制限論

(醫文學)

同二年七月

- 石河幹明 福澤先生の雅號 (財政經濟時報一四の八) 同年八月
- 太田正孝 町人趣味 (三田評論三六二) 同二年十月
- 石河幹明 福澤先生の著述 (財政經濟時報一四の一〇) 同上
- 横山雅男 慶應義塾と福山藩との關係 (三田評論三六四) 同二年十二月
- 白柳秀湖 財界太平記(福澤岩崎と懇意の事) (經濟往來三〇二) 同三年一月
- 澤田謙 福澤先生の生家 (經濟往來三〇二) 同三年一月
- 小泉信三 福澤先生の著作に就いて (成人三〇六) 同三年二月
- 鎌田榮吉 福澤諭吉先生 (雄辯一九の二) 同三年二月
- 小泉信三 瘠我慢の説と栗本鋤雲 (三田評論三六七) 同三年三月
- 小松謙次郎 在塾當時の思ひ出 (三田評論三六八) 同三年四月
- 春名高義 福澤先生に就て思ひ出す事 (實業一二の六) 同三年六月
- 鈴木梅四郎 福澤先生と現代學 (三田評論三七一) 同三年七月
- 武藤山治 福澤先生の賜物 (現代九の一) 同三年十一月
- 鎌田榮吉 獨立自尊の精神を喚起せよ (實業之日本三一の二二) 同三年十一月
- 横山雅男 福澤先生より井上侯宛の書簡

川合貞一 福澤先生の人生觀

(三田評論三七六)

同三年十二月

尾佐竹猛 明治初年に於ける憲法制定の議

(三田評論三七七)

同四年一月

(明治文化研究五の一)

同上

横山雅男 福澤先生に關する事ども

(三田評論三七八)

同四年二月

金井延 黎明を語る(明治二十年前後の社會思想)

(經濟往來四の二)

同上

井上角五郎 朝鮮事變に就て

(講演六五)

同上

高山長幸 思ひ出の話

(三田評論三七九)

同四年三月

太田正孝 町人諭吉と侯爵大隈

(現代一〇の三)

同上

林毅 陸學問

(現代一〇の四)

同四年四月

尾崎罌堂 福澤先生と澁澤子爵

(實業之日本三二の八)

同上

井上角五郎 朝鮮事變に就て

(明治文化研究五の四)

同上

鎌田榮吉 王政維新と福澤先生

(現代一〇の五)

同四年五月

林幸平 先生の大感化

(實業之日本三二の一〇)

同四年五月

近松秋江 福澤諭吉と刀劍

(雄辯二〇の六)

同四年六月

鎌田榮吉 福澤先生に就て (慶應義塾豫科會誌六) 同四年七月

川合貞一 福澤先生の思想原理 (同上) 同上

神代種亮 明治新語新説雜考 (明治文化研究五の七、五の八) 同四年七月

佐藤南岳 福澤諭吉 (郊外一〇の九) 同四年九月

村上菟喜 福澤先生追憶 (三田評論三八六) 同四年十月

波多野承五郎 明治初年「慶應」の塾風 (三田評論三八七) 同四年十一月

石濱知行 慶應義塾論 (改造一一の一二) 同四年十二月

松永安左衛門 福翁逸話 (慶應俱樂部二二) 同上

石川幹明 福澤先生の倂 (慶應俱樂部三の二) 同五年一月

石川巖 「文明開化」について (明治文化研究六の一) 同上

横山雅男 本邦最初の統計 (統計學雜誌五二三) 同上

栗栖赴夫 福澤先生の「西洋事情初編」に見えたる會社と社債

(財政經濟時報一七の二) 同上

横山雅男 福澤先生を偲びて (三田評論三九〇) 同五年二月

武田勤治 緒方洪庵の蘭學塾 (一)(二) (教育學術界六〇の五、六) 同上

藤山 雷太 福澤先生とドクトル、シモンズ

(三田評論三九一)

同五年三月

北川 禮弼 福澤先生の眞髓

(慶應俱樂部三の三)

同上

足立 莊 福澤先生と伊藤公

(同上)

同上

横山 雅男 福澤先生と古川正雄

(明治文化研究六の三)

同上

尾佐 竹猛 維新前に於ける福澤先生

(三田評論三九二)

同五年四月

三宅 雪嶺 同時代觀

(我觀七七)

同上

鎌田 榮吉 福澤先生と學生

(三田評論三九五)

同五年七月

林 毅 陸 福澤先生と教育

(三田評論三九六)

同五年八月

三宅 雪嶺 同時代觀

(我觀八二)

同五年九月

瀧本 誠一 福澤先生の經濟學說

(三田評論四〇〇)

同五年十二月

尾佐 竹猛 政治教育家としての福澤先生

(三田評論四〇一)

同五年一月

安藤 徳器 福澤諭吉先生の華族を導くの説

(法律春秋六の三)

同六年三月

高橋義雄 福澤先生に就て (三田評論四〇四) 同六年四月

田崎仁義 福澤諭吉の民間經濟錄と學者の志 (法律春秋六の五) 同六年五月

川合貞一 ミルの「功利論」の書き入れより見たる福澤先生 (三田評論四〇六) 同六年六月

鎌田榮吉 偉大なる感化力 同上 同上

占部百太郎 福澤先生の政治思想の根基 (同上) 同上

小泉信三 福澤傳の完成 (中央公論四六の七、五五二) 同六年七月

犬養毅 福澤諭吉先生を想ふ (雄辯二二の七) 同上

加田哲二 福澤諭吉(經濟學者の話) (經濟知識六の九) 同六年九月

小林澄兄 福澤先生と職業 (慶應義塾普通部ニュース三の三四) 同六年十月

鎌田榮吉 福澤先生と慶應義塾 (三田評論四一一、四一二) 同六年十一月、十二月

小泉信三 福澤先生と日清戰爭 (財政經濟時報一八の一二) 同六年十二月

柳田泉 福澤先生の政治戯曲「四方の暗雲波間の春雨」 (書物展望二の二) 同七年一月

吉野作造「西洋事情」偽版 (同上)

同上

小泉信三 福澤先生と日清戦争 (三田評論四一四)

同七年二月

小泉信三 福澤先生と日清戦争 (改造の二)

同七年二月

富田正文 福澤先生傳の編纂成る (三田文學七の二)

同上

及川恒忠 學問のすゝめに就て (三田評論四一五)

同七年三月

鎌田榮吉 福澤先生と人格養成 (慶應義塾普通部ニューズ四の二九―三〇)

同上

高橋誠一郎 福澤先生の晩年と慶應義塾 (三田評論四一六)

同七年四月

小泉信三 福澤先生について (愛國者としての一面について)

同七年五月

林 毅 陸 福澤先生 (僕の感心した人物) (ダイヤモンド二〇の一九)

同七年六月

林 毅 陸 弱者と福澤先生 (三田評論四一九)

同七年七月

鎌田榮吉 慶應義塾の七十五年間 (慶應義塾豫科會誌一一)

同上

林 毅 陸 創立七十五年を迎へて (稻荷山から二の二)

同上

柴田一能 慶應雄辯會の憶ひ出 (雄辯二三の七)

同上

林 毅 陸 社會の現状と教育 (鎌田共濟會雜誌九の三)

同七年八月

福澤諭吉先生

(ダイヤモンド二〇〇の
二九、二〇の三〇〇)

同七年九月、十月

小林澄兄 師範教育と慶應義塾

(三田評論四二一)

同上

松本彦次郎 明治時代に於ける日本文化史の展望

(歴史教育七の九増刊號)

同七年十一月

尾佐竹猛 法律家としての福澤先生

(三田評論四二三)

同上

高橋誠一郎 晩年の福澤先生

(三田評論四二五)

同八年一月

高橋誠一郎 梅園、萬里及び福澤先生の經濟論

(三田學會雜誌二七の二)

同上

高橋義雄 漢文學と福澤先生

(三田評論四二六)

同八年二月

富田正文 四方の暗雲波間の春雨(福澤先生の戯曲)

(三田文學八の五)

同八年五月

板倉卓造 續福澤全集完成と其中の一文

(三田評論四三一)

同八年七月

幸田成友 「續福澤全集」第一卷

(同上)

同上

最近發見せる福澤先生の書翰

(同上)

同上

小泉信三 「續福澤全集」を讀む

(同上)

同上

續福澤全集に對する諸家の批評

(三田評論四三四)

同八年九月

鎌田榮吉 續福澤全集に就て

(三田評論四三五)

同八年十月

北島多一 福澤先生と科學

(三田評論四三七)

同八年十二月

芋 作 維新の旋回運動に於ける福澤先生 (先生の生誕百年祭に因みて)

(ダイヤモンド二二の三)

同九年一月

川合貞一 福澤諭吉先生の精神文化への貢獻

(日本精神文化一の一)

同九年一月

福澤先生略歴

(電氣の友七九〇)

同九年二月

横山雅男 福澤先生と統計

(明るい家)

同九年二月

小泉信三 先覺者教育家としての福澤先生

(三田評論四三八)

同上

水木京太 日本の夜明け (ラジオ・ドラマ) (同上)

同上

福澤先生誕生第一百年を迎へて

(同上)

同上

福澤先生誕生一百年を想ふ (實業之世界三一の二)

同上

柳田泉 福澤先生「書翰集」に就て (明治文化研究一)

同九年二月

鎌倉保 福澤諭吉傳(明治經濟學者小傳、四) (財政經濟時報二一の二)

同上

長谷川伸 福澤諭吉暗殺其他 (劍客任俠斬り損なつた經驗)

(文藝春秋一二の三)

同九年三月

高橋誠一郎 福澤先生と浮世繪版畫 (經濟往來九の三)

同九年三月

波山徹哉 福澤諭吉と自由主義 (現代文化二)

同九年四月

福澤先生に就て感銘せる點 (伯柳五)

同九年五月

渡邊栗山 明治十四年政變について (明治文化研究二)

同上

白柳秀湖 明治の史論家(一、二) (實生活二一五、二一六)

同九年五月、六月

藤野靖 福澤先生の著述と經濟論 (商業論集九の一)

同九年六月

加田哲二 明治初年の新舊思想對立への序曲

(三田學會雜誌二八の六)

同上

小泉 信三 慶應義塾を中心に

(現代一五の六)

同上

伊藤 痴遊 福澤諭吉を語る

(講談落語界二三の六、七、八)

同九年六月、七月、八月、

高橋誠一郎 福澤先生の貧富論

(三田評論四四三)

同九年七月

昆野 和七 福澤先生のことども

(三田政治學雜誌八)

同八年七月

西川孝次郎 「張合之法」につきて

(會計三五の三)

同上

中村吉藏 福澤諭吉(戯曲)

(キング一〇の九)

同九年九月

小泉 信三 福澤先生のこと

(中央公論誌の二・五三特大號)

同九年十月

眞山 青果 戯曲福澤諭吉

(改造一六の一〇特輯號)

同上

中村吉藏 戯曲福澤諭吉

(新演劇二の一〇)

昭和九年十月

單 行 本

津田 權平編 明治立志編 (福澤諭吉君傳)

明治十三年一月

木村 文造編 明治英名 (福澤諭吉)

同 十六年五月

高瀬 松吉編 明治英名傳 (學士傳福澤諭吉)

同 十六年八月

田口 卯吉著 經濟策 (福澤先生著「通貨論」を讀む)

同 二十年三月

朝野新聞諸先生記 朝野人物評 (福澤諭吉氏)

同 二十三年三月

廣池 千九郎著 中津歴史

同 二十四年十二月

徳富 猪一郎著 人物管見 (明治の二先生福澤諭吉と新島襄・文學者としての福澤諭吉) 同 二十五年五月

西村天外人著 偉業龜鑑日本立志編 (福澤諭吉傳)

同 二十七年三月

手塚 猛 昌編 慶應義塾之學風 (福澤先生の感化力)

同 二十七年五月

鳥谷部 春汀著 明治人物評論 (新聞記者としての福澤諭吉・福澤諭吉)

同 三十一年十一月

焉 用 氏著 學商福澤諭吉

同 三十三年六月

竹越 與三郎著 萍聚絮散記 (福澤先生)

同 三十五年六月

土屋 元 作著 余が見たる福澤先生

同 三十六年二月

岡本 經 朝著 近世百物がたり (福澤先生の骨折・福澤先生の湯屋・局外の福澤先生と當局の福澤先生・慶應義塾の大久保彦左衛門) 同 三十六年九月

高橋 淡水著 時代文學史 (福澤諭吉とその文學・福翁の抱持せる理想) 同 三十九年八月

信太 歌之助著 福澤諭吉先生が瘠我慢の説を駁す 同 四十年六月

全國教育者大集會編 帝國六大教育家 (故福澤諭吉君について) 同 四十年十月

早稻田大學出版部編 大隈伯演說集 (明治文明史上に於ける福澤翁) 同 四十年十月

大隈 重 信撰 開國五十年史 (上卷 民間教育―福澤諭吉・女子教育―福澤氏の女子論) 同 四十年十月
(下卷 明治文學―福澤諭吉氏・基督教―福澤諭吉の嘲罵)

藤田 長江編 福澤翁言行錄

同 四十一年三月

戸川 秋骨著 時代私觀 (福澤先生)

同 四十一年十一月

三田商業研究會編 福翁訓話

同 四十二年五月

江森 泰吉編 大隈伯百話 (福澤翁と時事新報)

同 四十二年六月

鳥谷部 春汀著 春汀全集(二) (福澤諭吉翁)

同 四十二年八月

藤原 喜代藏著 明治教育思想史 (福澤諭吉の啓蒙、破壊)

同 四十二年十一月

三宅 雄二郎著 偉人の跡 (福澤諭吉氏・伊藤氏と福澤氏)

同 四十三年四月

林 堇 著 後は昔の記 (學生派遣と福澤翁)

同 四十三年十二月

土屋 元作著 新學の先驅 (蘭學の殿英學の先 福澤諭吉)

同 四十五年二月

増島 信吉著 福澤先生と小川武平翁

同 元年一月

高橋 淡水著 列傳體明治史 日本新英傑傳 (福澤諭吉)

同 元年八月

高橋 淡水編 福澤諭吉言行錄 (偉人研究第五十四編)

同 元年八月

鬼面 居士著 おきやく論 (一名當世紳士論) (福澤先生をして在世ならしめば) 同 二年一月

田中 王堂著 吾が非哲學 (評論家としての福澤諭吉)

同 二年十二月

岡本 貞愆著 恩師先輩訓話隨錄

同 三年三月

朝比奈 知泉著 明治功臣錄 (天ノ巻) (福澤諭吉翁) 同 四年四月

小林 堅三編 愛川遺橋 (福翁百話を讀む・大常識福澤翁の逝去) 同 四年六月

田中 王堂著 福澤諭吉 同 四年十二月

藤島 宇太編 明治昭代史 (明治の人物福澤諭吉) 同 四年

大町 桂月著 十人十色名物男 (偉人福澤諭吉翁・翁の瘠我慢の説を駁す・翁と大隈伯) 同 五年三月

鈴木 梅四郎著 修養實訓福澤先生の手紙 同 七年六月

豊富 伊太郎著 三田つ子になるまで 同 九年一月

大分 縣編 大分縣勤王家小傳附大分縣偉人小傳 (福澤諭吉) 同 九年十月

鈴木 梅四郎著 學問及び學者 (荻生徂來と福澤先生・福澤先生の功績の最も著大なるもの・蓮如上人) 同 十年十一月

松枝 保二編 大隈侯昔日譚 (十四年の政變と福澤諭吉) 同 十一年三月

矢田 績 手記 懷舊慢話 同 十一年九月

犬 養 毅著 木堂談叢 (福澤先生と拜金宗) 同 十一年十月

三木 作次郎編 年譜福澤先生小傳並逸話 同 十二年六月

尾崎 行雄著 罌堂漫筆 (福澤先生その他) 同 十二年八月 (罌堂漫錄・罌堂漫談・近代快傑錄)

大日本文明協會編 明治文化發祥記念誌 (新日本建設の基礎を固められし福澤先生) 同 十三年十二月

三木 作次郎編 偉人の面影

同 十三年十二月

慶應義塾養眞會編 福澤先生に關する講演集 第一冊

太田 原在文著 十大先覺記者傳 (福澤諭吉)

同 十五年三月

波多野 承五郎著 梟の目 (福澤翁の道德觀)

同 二年一月

朝比奈知泉文集刊行會編 朝比奈和泉文集 (福澤翁の修身要領・修身教育に關する暴論) 同 二年四月

太田 正孝著 町人諭吉

同 二年五月

三木 作次郎編 福澤先生の舊邸

同 二年七月

菊 池 寛編 日本偉人傳 (小學生全集三十七卷) (獨立自尊居士福澤諭吉) 同 二年十二月

三木 作次郎編 福澤先生の逸話

同 三年十一月

小山 完吾述 講演二題 (教養ある人となれ・書生の見た福澤先生)

同 四年二月

三木 作次郎編 福澤先生の金言

同 四年三月

三木 作次郎編 福澤先生の餘影

幸徳 秋水著 幸徳秋水文集 (改造文庫) (修身要領を讀む・平凡の巨人) 同 四年三月

土屋 元作著 戲曲福澤先生

同 四年七月

若宮 卯之助編 森村翁言行錄 (福澤先生の感化・福澤先生との初對面)

同 四年八月

- 石山 賢吉編 伊藤欽亮論集 (下) (福澤大先生の原稿、福澤先生「豪傑」の折紙) 同 五年三月
- 弓削 俊澄述 禍福のわかれ路 (佛教の現實化と福澤翁) 同 五年三月
- 井上 哲次郎著 明治の哲學回想録 (哲學講座第二卷) (福澤諭吉) 同 六年四月
- 福澤先生研究會編 我が福澤先生 同 六年四月
- 宇野 浩二著 福澤諭吉 (小年小女教育講談全集第九卷) 同 六年七月
- 石河 幹明著 福澤諭吉傳 (全四卷) 同 七年二月
- 赤松 文二郎著 郷賢福澤先生 同 七年十一月
- 京都慶應俱樂部編 京都慶應義塾 (福澤先生と京都文化) 同 七年十一月
- 林 毅 陸著 弘堂講話集 同 八年五月
- 加田 哲二著 明治初期社會思想の研究 (明治初期の思想家―福澤諭吉) 同 八年五月
- 田制 佐重著 日本精神思想概説 (福澤諭吉と西村茂樹) 同 八年六月
- 小泉 信三著 師・友・書籍 同 八年六月
- 高橋 誠一郎著 福澤先生傳 (偉人傳全集第九) 同 八年六月
- 高橋 義雄著 箒のあと (上・下) 同 八年七月、十一月
- 雄山 閣 編 異說日本史 第八卷 人物篇 (福澤諭吉) 同 八年七月

河野 省三著 日本精神發達史 (福澤諭吉の帝室論)

同 八年九月

中津市教育會編 福澤諭吉先生

同 八年

矢 田 績著 福澤先生と自分

同 八年

木 村 毅著 明治文學を語る (啓蒙期の天才福澤諭吉・「かたわ娘」の寓意) 同 九年五月

鎌田榮吉先生傳記及全集刊行會編 鎌田榮吉全集(二卷・三卷) 同 九年六月、十月

井上角五部著 福澤先生の朝鮮御經營と現代朝鮮の文化とに就いて 同 九年

和田 日出吉著 福澤諭吉と弟子達 同 九年九月

C. Lanman. Leading of Japan. Boston. 1883. (Fukuzawa Yukiichi)

W. G. Aston. Fukuzawa Yukiichi, Author and Schoolmaster. (Transaction and proceeding of the

Japan society. vol. V. Tenth section. London 1900—1901)

C. Kadono. Supplemental paper on the same. (Transaction and proceeding of the Japan

society. vol. V. Tenth section. London 1900—1901)

C. Kadono. Fukuzawa, a sketch of his work. London 1902.

A Miyamori. A life of Mr. Fukuzawa. Tokyo 1902.

W. Clement. Handbook of Modern Japan. Chicago 1905.